

葛川小・中学校

令和6年度 我が校の学ぶ力向上策

【大津市目標】

○新しい価値と可能性を追求する大津の教育～多様性を尊重し自立する人～

【学校 目標】

○豊かな自然と強い絆のあるふるさとで、心豊かに学び未来の創り手となるたくましい子ども

【現状と課題】

- 視点1 個別に支援が必要な生徒が多い中、一人ひとりの学びの状況に応じた指導を行う
- 視点2 安曇川流域の自然を活用したアントレプレナーシップの育成を通して、豊かな人間性や人間関係を築く
- 視点3 小中が隣接している極小規模校で、9年間を見通した子ども育成を行う

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○子ども一人ひとりの学びの状況に応じた指導の充実	・個別の教育支援計画の作成とそのことに対応した授業を展開する。		
	・児童生徒へのアンケートや教員アンケート、保護者アンケートなどを活用する。		

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○体験活動を通じた豊かな人間性や人間関係を築く取組の充実	・総合的な学習の時間を通して「葛川久多がもつとつながる」ためのKCLプロジェクトを中学校とともにおすすめ。		
	・「ふるさと未来科」(生活科・総合的な学習の時間)を核として、地域の方や関連事業従事者から学ぶ体験活動を多く取り入れる。		

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○小中9年間を見通した取組の推進	・小中合同での会議や研修会を年間5回以上実施する。		
	・中学生、高学年をリーダーとした異年齢集団の学びや活動が継承されるよう、子どもたちの考えをもとにした学習計画を立てる。		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・小中一貫推進担当のもと、月一回の小中一貫会議をもち、小中の研究主任が中心となって組織的に実践につなげる。
- ・4～5月 (計画期間) 職員会議や 校内研究全体会での共通理解
- ・6～12月 (実践期間) 各研修会、授業公開など
- ・1～2月 (評価・分析期間) 本年度のまとめ
- ・3月 (改善・つなぎの期間) 次年度構想・研究紀要発行

今年度の取組の成果と課題

--